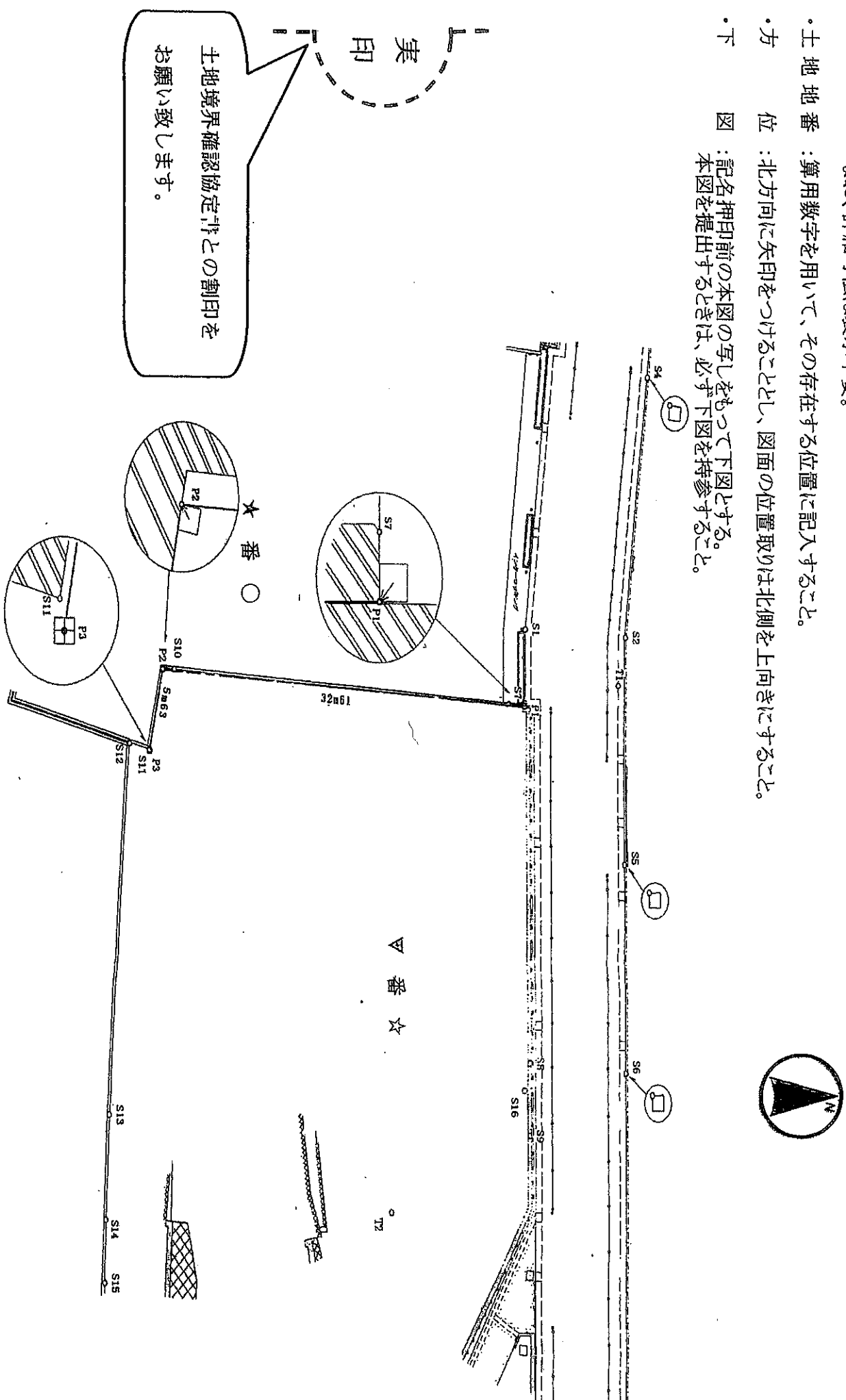


※作成上の注意

【土地境界確認図 作成例（総務部契約管財課）】

- ・数値の処理 : 境界点間の辺長は、算用数字にて記入のこと。メートル単位とし、座標値を展開した数値の1/100未満を切り捨てて表示すること。
- ・記載の方法 : 境界辺長には小数点位置にmの文字を記載すること。
- ・引照点 : 容易に動かし難い角のどがった構造物からとること。ソノホール等は不可。構造物のどの位置を測取したのが表現し難いときは、詳細図にて表現すること。
- ・境界点 : 境界点ごとに周辺構造物との位置関係を詳細図にて表現すること。なお、詳細寸法は表示不要。
- ・土地地番 : 算用数字を用いて、その存在する位置に記入すること。
- ・方位 : 北方向に矢印をつけることとし、図面の位置取りは北側を上向きにすること。
- ・下図 : 記名押印前の本図の写しをもって下図とする。本図を提出するときは、必ず下図を持参すること。



凡	境界点
○ Pn	境界点
○ Sn	引照点
○ Tn	機械点
○m○	境界辺長

点名	X座標	Y座標	備	考
P1	218.129	277.351	区コンクリート杭	<input checked="" type="checkbox"/>
P2	000.000	000.000	区金属標	<input checked="" type="checkbox"/>
P3	000.000	000.000	ミカゲ石	<input type="checkbox"/>
S1	000.000	000.000	鉄	
S2	000.000	000.000	鉄	
S3	000.000	000.000	鉄	

S14	000.000	000.000	プロック塀角 H=0.65
S15	000.000	000.000	プロック塀角
S16	000.000	000.000	プロック塀角 H=0.15
T1	000.000	000.000	鉄
T2	000.000	000.000	鉄

※座標欄
 ・境界点、引照点ともに地面から10cm以上の高さをもってある箇所は、その高さをメートル単位で1/100以下を切り捨てて表示すること。
 ・座標値はメートル単位として1/1000まで記入し、小数点以下第四位を四捨五入すること。
 ・石標等は現形を記入すること。

※図面の品質
 ・大きさ : JIS・A列2番若しくは3番の大きさとする。
 ・紙質 : 長期保存に適した普通紙とする。紙質は中性紙とする。
 ・余白 : 外周に額縁状に幅3cm以上の余白をとること。
 ・筆記方法 : 活字は2.5mm以上とし、黒一色にて記入すること。
 ・長期保存に耐え、改ざん不可能なものとし、活字が剥がれたり、消えてしまうものは不可。

土地境界確認図		縮尺
土地所在	板橋区〇〇△×丁目▲番☆	1/250
地番	ほか	
測量年月日	平成 年 月 日	
作成年月日	平成 年 月 日	
作成者	板橋区測量事務所 板橋太郎 印	
資格番号	第〇〇〇〇〇〇号	

※作成者欄
 ・実務取扱者が申請書と同様に記名押印すること。また、資格を有する者である場合、その資格番号も記入。
 ・測量年月日は、立会年月日後、合意年月日以前の日とする。

・実務取扱者が記入すること。
 ・複数の地番が存在するときは代表地番に「ほか」を表示すること。
 ・縮尺は1/250を原則とする。